



平成25年11月1日(金)発行【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 芝 啓彦

第108号

【目次】

1. 2013年度MCLC技術検討会
2. トラック事業における受委託点呼(共同点呼)の導入について
3. 中型免許制度見直しについて
4. 当社輸送サービス(MCLCネットワークシステム)のご紹介
5. 場所紹介 ~北茨城市の巻~
6. 国際物流情報プラットフォーム(NACCS)セミナー参加レポート
7. キャッシュフロー視点による在庫管理研修会受講レポート



1. 2013年度MCLC技術検討会

2013年10月15日～16日の2日間にわたり、本社にて当社技術検討会を開催しました。全社技術力の質的向上と情報の共有化、及び若手育成を目的として毎年開催している本検討会も37回を数えます。検討会では会議に加え、2日目の午後には東京ビックサイトで開催された「JAPAN PACK 2013」にも参加し、包装機械、関連機器の情報収集を行いました。

検討会での発表は安全、保全、設備管理、事例紹介等多岐にわたるテーマがあり、具体的内容は以下の通りです。

- ① 作業員検知システムの取組み
- ② トレーラー車輪部品(ハブ)損傷事故について
- ③ 太陽光発電設備設置に伴う屋根のメンテナンス
- ④ 立体倉庫スプリンクラー漏れ点検
- ⑤ 紙袋包装機ミシン目飛び検査装置の開発
- ⑥ パレタイザー更新(ロボパレ転用)計画
- ⑦ 太陽光発電(車両搭載)の取組み
- ⑧ 輸送容器管理とタイ倉庫での取組み

いずれのテーマも興味深い発表で、活発な議論が飛び交いました。次回以降も、より内容の充実を図り、技術力向上・強化に貢献できる様な会議にしていきたいと思えます。

2. システムの概要 6/40

FLT等の重機作業において「FLTに対し、作業員が危険な距離にいる」ことを**警報**で教え、事前に事故を防ぐシステム。

検知器一式 300千円(税別)
220×145×75(mm)

タグ 10千円(税別)
65×40×23(mm)
23(g)

・使用温度 : -10℃～50℃
・防塵・防水仕様
・タグ電池寿命 : 約1年

FLTに検知器とフザーを取付け、作業員のヘルメットにタグを取付ける。

◆システムイメージ 7/40

作業員が検知距離内に入った場合に、タグから無線で検知器に信号を送り、フォークリフト運転者に警告を行う。

・作業員が持つタグから常時数秒に1回、電波が出ており、信号を送信する。
・検知範囲に入ってから警報音が鳴るまでの時間は平均0.4秒。

* 発表資料抜粋(作業員検知システムの取組みについて)

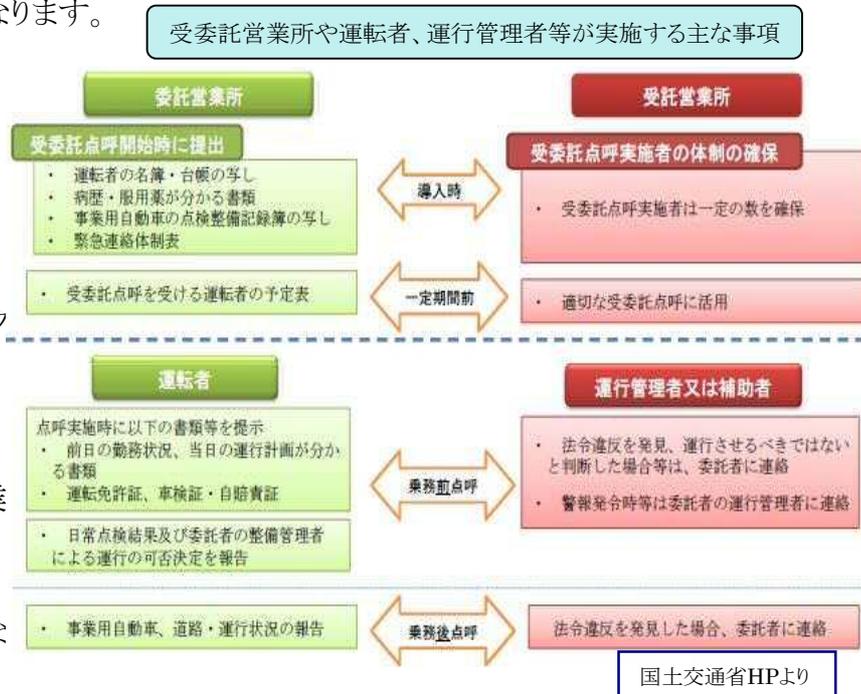
2. トラック事業における受委託点呼(共同点呼)の導入について

トラック運送事業における輸送の安全確保及び経営環境の改善を目的とし、国土交通省から受委託点呼(共同点呼)制度を導入すると発表がありました。

2013年11月1日から「受託営業所」を管轄する運輸支局を經由して地方運輸局に許可申請し、許可を得た段階で共同点呼が可能になります。

中小のトラック運送事業者では、深夜・早朝時間帯における点呼を行う運行管理者等の確保が大きな負担となっています。この制度を活用すれば、流通業務団地などトラック運送事業者が多く集まる地区で共同輸配送と併せて実施するなど、共同化を通じたトラック運送事業の経営環境改善も期待されます。

受託側営業所はGマーク(安全認定)を取得している必要があり、委託側営業所はGマークを取得しているか、過去3年間に重大事故を引き起こしておらず、点呼実施違反の行政処分を受けていないことが条件となっています。



3. 中型免許制度見直しについて

2013年1月4日発行の本紙第103号でも中型免許制度の影響について掲載しましたが、警察庁は、中型免許制度を見直す方針を固め、9月下旬に「貨物自動車に係る運転免許制度の在り方に関する有識者検討会」を設置し検討を開始しました。

2007年に導入された中型免許は、車両総重量5トン以上11トン未満の車両を運転できる免許で、受験資格が20歳以上とされています。

しかしながら、最近の宅配便やコンビニ配送に使用される2トン車両は保冷設備やパワーリフトの架装等により車両総重量が5トンを超えているケースが多く、高校新卒者が運転できないという事態が問題となっており、全日本トラック協会が見直しを求めています。

また、全国高等学校校長協会も高校新卒者の雇用確保の観点から、今年5月、警察庁に普通免許の車両総重量範囲の上限を現行の5トンから6.5トン未満とする要望書を提出していました。

本検討会は、中型免許制度導入後の安全面での効果検証を行うとともに、車両重量等に対応して必要とされる運転技能等、現在の貨物自動車に係る運転免許制度の課題を明らかにしつつ、より安全で、かつ、国内で運転されている自動車の実態に即した運転免許制度の在り方について検討していくとのことでした。

今後の雇用確保の観点から、受験可能年齢の見直しを行うだけでなく、様々な検討を行い柔軟な措置をとって対応していく事が望まれます。

運転免許制度の概要				
区分	車両総重量	最大積載量	乗車定員	受験資格
普通免許	5トン未満	3トン未満	10人以下	18歳以上
中型免許	5トン以上 11トン未満	3トン以上 6.5トン未満	11人以上 29人以下	20歳以上 経験2年以上
大型免許	11トン以上	6.5トン以上	30人以上	21歳以上 経験3年以上

4. 当社輸送サービス(MCLCネットワークシステム)のご紹介

当社では、複数のお客様からお預かりした少量多品種のお荷物を、大型の幹線車を用いて全国に配置している21ヶ所の配送拠点へ輸送し、仕分け後に配送車にて納入先までお届けする輸送システムを構築しています。

この輸送のポイントは、幹線車が配送拠点まで直接運行するところにあります。中継点を何カ所も経由すると、その度に積み替えが発生してしまうので、時間のロスや、荷物の破損・紛失リスクが発生してしまいますが、当社のシステムであればそういったロスやリスクを削減し物流品質の向上が可能となります。

また、輸送のネットワークは広範囲をカバーしていますので、お客様毎に最適なルートを提供することができ、輸送コストも必要最小限に抑えることが可能です。

今後もお客様のニーズに合った拠点の設置、輸送ネットワークの強化を図り、効率的且つ安全な輸送システムとなるよう努力してまいります。



5. 場所紹介 ～北茨城市の巻～

2012年4月から物流元請として茨城県北茨城市磯原工業団地にあるA社工場内にて物流業務を開始しました。当社管轄場所である鹿島支社から場所が離れているため、A社工場内に社員一人で孤軍奮闘しています。

茨城県の最北端にあたる北茨城市は、東京から180kmに位置し、海と山に囲まれたとても自然豊かな場所です。古くは常磐炭田の中核として活況を呈し、今日では工業地帯として飛躍的な発展を遂げています。また観光名所としても有名で、近代美術の岡倉天心が思索にふけた六角堂や、海から突き出た二ツ島などがあります。

漁業も盛んで、大津・平潟の漁港を有し、アンコウの水揚げ本場として知られています。北茨城の郷土料理である「どぶ汁」は、平潟の漁師が船上での食料とするために作られたものとされています。

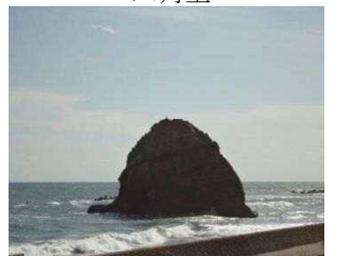
この北茨城市を代表する魚・アンコウをデザイン化したゆるキャラ「こうちゃん」がこの夏全国デビューを果たしました。熊本県のくま〇ンや千葉県船橋市のふ〇っしーと比べると若干グロテスクかもしれませんが、インパクトは大なので、皆さん可愛がって下さい。

最後に忘れてはならないのが、東日本大震災による被災です。ここ北茨城も津波による犠牲者が出るなどして甚大な被害を受けました。今なお続く震度5弱の余震、隣接する福島第一原発(約100km圏内)の放射能汚染による漁業問題等々が残っていますが、市民一丸となって1日も早い復興に取り組んでいます。

市内には温泉付きの旅館や民宿が数多くありますので、地元住民の温かい「お・も・て・な・し」を受けに是非一度お越し下さい。



六角堂



二ツ島



Copyright2013 北茨城市
こうちゃん#9

6. 国際物流情報プラットフォーム(NACCS)セミナー 参加レポート

輸出入・港湾関連情報処理センター(株)では、NACCS(Nippon Automated Cargo and Port Consolidated System)と呼ばれるシステムで、入出港する船舶・航空機および輸出入される貨物の税関・関係行政機関に対する手続及び関連民間業務をオンラインで処理するシステムを管理・開発・運用しています。セミナーでは、貿易取引・国際物流の多様化・スピード化を背景に、手続・申請業務効率化への取組み状況について説明があり、中心的役割を果たしているNACCSの重要性・有用性についての解説がありました。港湾手続(国土交通省)、税関、検疫(厚生労働省)、法務省、経済産業省等複数申請先にNACCSの入力画面(シングルウインドウ)から手続申請出来るようになっていきます。例えば、**輸入手続き所要日数(リードタイム)は、NACCS活用により、右図の通り大幅に短縮**されています。

2013年10月からは通関の際に添付する「通関関係書類」はNACCSを利用して電子的に提出することが出来るようになりました。また、2014年3月からは入港する海上コンテナ貨物詳細情報を出港24時間前に電子的に報告することが義務付けられます。「お役所仕事は非効率なもの」との先入観がありましたが、NACCSの業務領域拡大・活躍ぶりは今後も刮目して見ていきたいと思いました。

輸入手続き所要日数の比較		
	海上貨物	航空貨物
1991年	7.0日	2.2日
2012年	2.5日	0.6日

7. キャッシュフロー視点による在庫管理研修会受講レポート

2013年8月26日、三菱化学社業務革新室主催の「実践 キャッシュフロー経営研修」に参加してきました。本紙第106号でご紹介した第2弾として今回は「キャッシュフロー視点による在庫管理」がテーマでした。

近年、在庫管理に注目している企業が増えていますが、在庫をどこまで減らしていいものか見極めるのが困難だそうです。原因としては、1980年以降、多国籍企業によるグローバル資本の時代に入り金融グローバル化が進んだ現代では外部環境変化の予測が難しくなったことで、在庫管理も困難になってきています。

在庫管理の考え方として需要変動要因があります。一般的に用いられる考え方として主要品目の適正在庫管理や在庫品目の絞り込み等が挙げられますが、それ以外に3点あります。1つ目は自社製品が市場においてどのような位置づけであるか把握するポートフォリオマネジメント、2つ目はなるべく在庫を持たないように努めるために受注に対してどのポイントで在庫を持つかを検討するデカップリングポイント、3つ目は収益を最大化するために考慮し運営するレベニューマネジメントがあります。

在庫管理する際は、外部環境変化の予測が困難ではありますが、モノづくりの特徴を捉えて適正在庫を考える有意義な研修会となりました。

芝のそよ風

ソリューション営業部 石山 義裕

秋といえば食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋と色々ありますが、今年は2020年オリンピック開催地が東京に決定し、日本中が湧き上がった秋になりました。

招致にあたってのプレゼンテーションで話題になった「おもてなし」ですが、調べてみるとモノを持って事を成し遂げるという意味の他に裏表のないコト(心)という意味もあるそうです。目に見える「モノ」と目に見えない「コト」でもってお客様を待遇するということになるそうです。

我々がよく使うサービスはラテン語が語源で主従関係が明確であり、対価を求め提供する「モノ」の色が強いと言えるのではないのでしょうか。

我々が提供するのは物流サービスですが「モノ」だけでなくそこに「コト」を加えてお客様に接する「おもてなし」の心の必要性を痛感した秋となりました。